



その25

田中家信

—たなか いえのぶ—
生没年不詳

(令和6年5月1日号—第350号)



「河内^{たんなん}丹南 鑄物^{いもの}のおこり」とたたらいにあるように、古くから河内は鑄物発祥の地と歌い継がれています。河内^{いものじ}鑄物師の活躍は、鎌倉時代に全盛期を迎え、鑄造された梵鐘^{ぼんしょう}は、東北、九州を除く全国に及んでいます。

その後、下級公家^{くげ}である真継家^{まつぎ}が、全国の鑄物師を統括するようになりました。河内国^{まつた}茨田郡枚方村（現在の枚方上之町）で古くから鑄物業^{いものぎょう}を営んでいた田中家は、元文3年（1738年）、真継家配下の鑄物師として、河内国^{さうそうかん}左右惣官鑄物師に任ぜられ、国中の鑄物師を統率するとともに、交野、茨田、河内（後に讃良^{さくら}）の三郡における独占的営業を許されました。田中家で鑄造された梵鐘の分布は、北河内だけでなく、その周辺にまで及んでいます。しかし、それらのほとんどは第二次世界大戦中における金属供出の犠牲となり、市内に残る田中家鑄造の梵鐘は、市指定有形文化財である^{はいなぎさのいん}廃渚院観音寺の梵鐘（渚元町）のみです。この梵鐘は、寛政8年（1796年）に田中家信によって鑄造されたもので、「^{*}牧方^{だいさかん}住田中河内大目 藤原家信」と文字が浮き出るように鑄造されています。



廃渚院観音寺の梵鐘

田中家では、江戸時代を通じて、近隣の人々が使う鍋や釜、農具なども鑄造していました。明治以降、日本各地に近代的な工場が造られてからも、伝統技術を守って営業を続けましたが、昭和35年（1960年）頃に廃業しました。

その後、鑄物工場と主屋は本市に寄贈され、移築復原後、昭和59年（1984年）に旧田中家鑄物民俗資料館（藤阪天神町）として開館しました。鑄物工場は、国内で



旧田中家鋳物民俗資料館の鋳物工場展示室

唯一、江戸時代の姿のまま残されており、日本の鋳物技術と枚方の昔の暮らしを伝えています。

＊「枚方」のこと。